

日時		場所	会場	公演名	出演者	主催	後援	入場者数
2017年 平成29年 12月10日 (日)	開演 13時30分	釜石市	釜石市民ホール	第40回 かまいの第九	指揮 山崎眞行 Sop 土井尻明子 Alt 斎藤みどり Ten 澤田薫 Bas 小原一穂 管弦楽 ウッドランドノーツ 釜石市民吹奏楽団 合唱 かまいの第九の会 甲子中学校生徒	かまいの第九実行委員会 後援 テレビ岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手 朝日新聞盛岡 毎日新聞盛岡支局 読売新聞盛岡支局 岩手日報 河北新報社	釜石市 釜石市教育委員会 釜石市芸術文化協会 釜石市合唱協会 釜石新聞 三陸ブロードネット NHK盛岡放送局 IBC岩手放送 ガバチョ・プロジェクト スタッフ 山崎眞行 山崎詔子	900 人



29年) 12月12日 (火曜日) 特集 (22)

新拠点 喜び満ちて

第40回「かまいの第九」は10日、釜石市民ホール（ETTO テット）で今年も公演として行われた。12月、東日本大震災から6年が経ち、自ら経験した市民の文化祭の新たな節目で節目の「歌謡の歌」を響かされた。

釜石・市民ホール

開館祝う節目の「第九」

山崎眞行さん(67)「開館祝う節目の「第九」は、被災地に響く大きな演奏力強い響きの響く、ベトへの交響曲に、ナレーには拍手が鳴った。

約30年出演している前野田町の音楽界の中心人物は、ホールは新しく、涙で歌って、感動が広がった。震災後も毎年第一を歌う幸せを、かまいの第九で迎えた。12月、東日本大震災から6年が経ち、自ら経験した市民の文化祭の新たな節目で節目の「歌謡の歌」を響かされた。

約30年出演している前野田町の音楽界の中心人物は、ホールは新しく、涙で歌って、感動が広がった。震災後も毎年第一を歌う幸せを、かまいの第九で迎えた。12月、東日本大震災から6年が経ち、自ら経験した市民の文化祭の新たな節目で節目の「歌謡の歌」を響かされた。

岩手日報掲載
2017年12月12日